

授業科目	成人看護学実習Ⅱ・Ⅲ	担当 教員	氏名	東本 七重																						
単位・時間数	5単位・225時間		所属	専任教員																						
対象学生	2023年度・3年生		担当者実務経験	病院にて看護師として勤務																						
受講要件	1・2年次配当の授業科目(実習科目を含む)の単位をすべて修得している。																									
授業概要	<p>成人看護学実習では、成人期にある対象の特徴を理解し、健康レベルに応じた個別的な看護を実践するための基礎的能力を習得させたい。健康レベルの変化を、疾病の経過という視点のみならず、対象の生活へ影響という視点も含め捉えさせる。</p> <p>成人看護学実習Ⅱでは、病棟実習を通して、比較的狀態が安定している回復期、慢性期にある対象の看護を学ばせたい。成人看護学実習Ⅲでは、病棟実習に加え、手術室・集中治療室や緩和ケア病院での実習を行い、あらゆる健康レベルにある対象への看護を学ばせたい。担当教員の看護師としての実務経験を活かして実習指導を行う。</p>																									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人各期にある対象の身体的・心理的・社会的・霊的特徴が理解できる。 2. 成人期の健康障害がある人の特徴が理解できる。 3. 健康レベルに応じた個別的な看護が実践できる。 4. 手術を受ける患者がおかれている状況を知り、手術中の安全と緊張緩和のための看護が理解できる。 5. 生命危機状況にある患者がおかれている状況を知り、生理的ニーズの充足と精神的安定のための看護が理解できる。 6. 終末期にある患者や家族の状況を知り、人生の最期の時を支援する看護の役割を理解することができる。 7. 保健医療チームの連携と看護の役割が理解できる。 8. 自己の看護観を深め、専門職としての看護師の態度が習得できる。 																									
実習の概要	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>単位</th> <th>時間</th> <th>内容</th> <th>時期</th> <th>場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>成人看護学実習Ⅱ</td> <td>2</td> <td>90</td> <td> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康障害を持つ成人期にある対象の理解 2. 慢性期または回復期にある対象への看護過程の展開 3. 他職種との連携の必要性を理解 4. グループの一員および看護チームの一員として、各自の役割の理解と基本的態度の習得 </td> <td>5～7月 12日間</td> <td>北九州総合病院 各病棟</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成人看護学実習Ⅲ</td> <td rowspan="2">3</td> <td>17.5</td> <td> <ol style="list-style-type: none"> 1. 手術を受ける対象の不安や緊張を緩和するための看護の理解 2. 生命危機的状況にある患者の生理的ニーズ充足のための看護と精神的安定のための看護の理解 </td> <td>4月 半日 5～8月 2日間</td> <td>北九州総合病院 OPR・ICU</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td> <ol style="list-style-type: none"> 1. 終末期にある患者と家族を支える看護の理解 </td> <td>8月 11月 1日間</td> <td>聖ヨハネ病院</td> </tr> </tbody> </table>				区分	単位	時間	内容	時期	場所	成人看護学実習Ⅱ	2	90	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康障害を持つ成人期にある対象の理解 2. 慢性期または回復期にある対象への看護過程の展開 3. 他職種との連携の必要性を理解 4. グループの一員および看護チームの一員として、各自の役割の理解と基本的態度の習得 	5～7月 12日間	北九州総合病院 各病棟	成人看護学実習Ⅲ	3	17.5	<ol style="list-style-type: none"> 1. 手術を受ける対象の不安や緊張を緩和するための看護の理解 2. 生命危機的状況にある患者の生理的ニーズ充足のための看護と精神的安定のための看護の理解 	4月 半日 5～8月 2日間	北九州総合病院 OPR・ICU	5	<ol style="list-style-type: none"> 1. 終末期にある患者と家族を支える看護の理解 	8月 11月 1日間	聖ヨハネ病院
区分	単位	時間	内容	時期	場所																					
成人看護学実習Ⅱ	2	90	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康障害を持つ成人期にある対象の理解 2. 慢性期または回復期にある対象への看護過程の展開 3. 他職種との連携の必要性を理解 4. グループの一員および看護チームの一員として、各自の役割の理解と基本的態度の習得 	5～7月 12日間	北九州総合病院 各病棟																					
成人看護学実習Ⅲ	3	17.5	<ol style="list-style-type: none"> 1. 手術を受ける対象の不安や緊張を緩和するための看護の理解 2. 生命危機的状況にある患者の生理的ニーズ充足のための看護と精神的安定のための看護の理解 	4月 半日 5～8月 2日間	北九州総合病院 OPR・ICU																					
		5	<ol style="list-style-type: none"> 1. 終末期にある患者と家族を支える看護の理解 	8月 11月 1日間	聖ヨハネ病院																					

<p>実習の概要</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="391 208 491 622"></td> <td data-bbox="499 208 587 622"></td> <td data-bbox="595 208 683 622">112.5</td> <td data-bbox="691 208 1058 622"> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康障害を持つ成人期にある対象の理解 2. あらゆる健康レベルにある対象への看護過程の展開 3. 他職種との連携をとり継続看護を計画し一部実施 4. 専門職としての態度の取得 5. 自己の目指す看護師像と課題へ向けての取り組み方の明確化 </td> <td data-bbox="1066 208 1193 622"> <p>6～9月 16日間</p> </td> <td data-bbox="1201 208 1396 622"> <p>北九州総合病院 各病棟</p> </td> </tr> </table>			112.5	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康障害を持つ成人期にある対象の理解 2. あらゆる健康レベルにある対象への看護過程の展開 3. 他職種との連携をとり継続看護を計画し一部実施 4. 専門職としての態度の取得 5. 自己の目指す看護師像と課題へ向けての取り組み方の明確化 	<p>6～9月 16日間</p>	<p>北九州総合病院 各病棟</p>
		112.5	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康障害を持つ成人期にある対象の理解 2. あらゆる健康レベルにある対象への看護過程の展開 3. 他職種との連携をとり継続看護を計画し一部実施 4. 専門職としての態度の取得 5. 自己の目指す看護師像と課題へ向けての取り組み方の明確化 	<p>6～9月 16日間</p>	<p>北九州総合病院 各病棟</p>		
<p>授業時間外の学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実習前に事前学習課題を提示する。実習中に活用できるものを作成し提出する。 ・実習中に学習不足があった内容は、随時追加学習を行い提出する。 						
<p>テキスト</p>	<p>基礎看護学方法論Ⅰ～Ⅱ、成人看護学概論、成人看護学方法論Ⅰ～Ⅴで使用した教科書</p>						
<p>参考文献</p>	<p>実習中に必要に応じて指定する。</p>						
<p>成績評価の方法と基準</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・成人看護学実習Ⅱ評価表を用いて評価する。 ・成人看護学実習Ⅲ評価表を用いて評価する。 <p>成人看護学実習Ⅲは</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 病棟実習 100点、② 手術室・集中治療室、緩和ケア病院実習 100点で評価し、①②ともに 60点以上を合格とする。 <p>成人看護学実習の最終評価は</p> <ol style="list-style-type: none"> ①病棟実習 80%、②手術室・集中治療室、緩和ケア病院 20%で評価する。 						

授業科目	小児看護学実習	担当 教員	氏名	松井 なつみ																								
単位・時間数	2単位・93.5時間		所属	専任教員																								
対象学生	2023年度・3年生		担当者実務経験	病院にて看護師として勤務																								
受講要件	1・2年次配当の授業科目(実習科目を含む)の単位をすべて修得している。																											
授業概要	<p>小児看護学実習では、既習の学習をもとに、個々の成長発達の過程や集団の中での成長発達について理解する。また、小児との関わりや遊びを通してコミュニケーションの方法や遊びの意義について考える。それらをふまえ、健康障害のある小児と家族に対して最善の看護とは何か考えられるようにしたい。また、実習全体を通して小児を尊重した関わりとは何か、自分の行動を振り返り考えさせ、子ども観を育てていきたい。</p> <p>さらに、小児との関わりの中で、小児の生きる力を感じ取り、成長発達を促す関わりについても考え実践できるよう実務経験を活かして実習指導を行う。</p>																											
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児の身体的・精神的・社会的特徴を理解し、成長・発達を促すための援助が実践できる。 2. 小児の疾患特有の諸症状と疾患及び入院が小児と家族に及ぼす影響を理解し、発達段階と疾患の状態に応じた適切な援助ができる。 3. 小児にふさわしい生活環境及び入院環境の調整について理解し、小児の発達段階や疾患の状態、環境に応じた安全・事故防止への援助の視点を持ち看護実践できる。 4. 小児保健医療チームの一員としての小児看護師の役割が理解できる。 5. 健全な小児観を養い、小児看護師として必要な態度を身につけることができる。 																											
実習の概要	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>単位</th> <th>時間</th> <th>内容</th> <th>時期</th> <th>場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">小児看護学 実習Ⅰ</td> <td rowspan="4">2</td> <td>23</td> <td>乳幼児期にある健康な小児の理解</td> <td>5～8月</td> <td>聖母園 あけぼの保育園 あけぼの愛育保育園</td> </tr> <tr> <td></td> <td>学童期にある健康な小児の理解</td> <td>11月</td> <td>北九州市立葛原小学校</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>障害をもつ小児の理解</td> <td>7月 9月</td> <td>北九州市立 総合療育センター</td> </tr> <tr> <td>67.5</td> <td>健康障害をもつ小児と家族の理解 健康障害をもつ小児と家族の看護</td> <td>5～11月</td> <td>北九州総合病院 (病棟・外来)</td> </tr> </tbody> </table>				区分	単位	時間	内容	時期	場所	小児看護学 実習Ⅰ	2	23	乳幼児期にある健康な小児の理解	5～8月	聖母園 あけぼの保育園 あけぼの愛育保育園		学童期にある健康な小児の理解	11月	北九州市立葛原小学校	3	障害をもつ小児の理解	7月 9月	北九州市立 総合療育センター	67.5	健康障害をもつ小児と家族の理解 健康障害をもつ小児と家族の看護	5～11月	北九州総合病院 (病棟・外来)
区分	単位	時間	内容	時期	場所																							
小児看護学 実習Ⅰ	2	23	乳幼児期にある健康な小児の理解	5～8月	聖母園 あけぼの保育園 あけぼの愛育保育園																							
			学童期にある健康な小児の理解	11月	北九州市立葛原小学校																							
3		障害をもつ小児の理解	7月 9月	北九州市立 総合療育センター																								
67.5		健康障害をもつ小児と家族の理解 健康障害をもつ小児と家族の看護	5～11月	北九州総合病院 (病棟・外来)																								
授業時間外の学習	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所実習事前学習 テーマ「乳幼児期の小児を理解するために必要なこと」 2. 小学校実習事前学習 テーマ「学童期の小児を理解するために必要なこと」 3. 病棟実習・北九州総合療育センター事前学習 テーマ「健康障害のある小児を理解するために必要なこと」 <p>※それぞれ、テーマに沿って、実習するとき自分がどのような学習をすれば、学びの多い実習にすることができるか自分で考えて事前学習の内容を考えること。</p>																											
テキスト	<p>奈良間美穂 他：系統看護学講座 専門Ⅱ小児看護学[1] 小児看護学概論/小児臨床看護総論，医学書院</p> <p>奈良間美穂 他：系統看護学講座 専門Ⅱ小児看護学[2] 小児看護学各論，医学書院</p> <p>任 和子 他：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術，医学書院</p>																											
参考文献	学研 疾患別看護過程の展開																											
成績評価の方法と基準	別紙評価表（実習オリエンテーション時提示）により評価する。																											

授業科目	母性看護学実習			担当 教員	氏名	平川 宣子
単位・時間数	2単位・90時間				所属	専任教員
対象学生	2023年度・3年生				担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
受講要件	1・2年次配当の授業科目(実習科目を含む)の単位をすべて修得している。					
授業概要	学内での学習をもとに、周産期(妊娠・分娩・産褥期)にある母性と新生児及びライフステージ各期にある女性の看護を理解させる。母性看護学実習では母児とその家族の全体像を把握し看護実践を通して必要な援助が提供できる基礎的能力を身につけさせる。また、母児及びその家族に対して看護専門職者が果たすべき役割、他職種との連携について理解させる。地域社会で行われている子育て支援のサポートの実際から子育て支援の必要性を理解させる。さらに生命の尊厳についての認識や自己の母性観・父性観を育む機会となるよう実務経験を活かして実習指導を行う。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 正常な妊娠・分娩・産褥各期の経過と胎児及び新生児の成長発達の経過を理解する。 2. 母性看護に必要な援助技術を理解する。 3. 産科病棟(外来)にて母乳管理と母児及び家族への保健指導の実際を知る。 4. 女性のライフサイクル各期(思春期・成熟期・更年期・老年期)における看護を知る。 5. 母親への子育て支援の実際や必要性を理解できる。 6. 自己の母性観・父性観を深め、母性看護者として必要な態度が習得できる。 					
実習の概要	区分	単位	時間	内容	時期	場所
	母性看護学実習Ⅰ	2	78	妊娠・産褥期の看護 女性のライフサイクル各期の看護	5～11月	北九州総合病院 助産師外来 4階東病棟 学内3時間 (事例検討会)
	母性看護学実習Ⅱ			妊娠・分娩・産褥期及び新生児の看護 女性のライフサイクル各期の看護		
	母性看護学実習Ⅲ		12	子育て支援の実際	5～8月	北九州子育てふれあい交流プラザ 北方地域子育て支援センター
授業時間外の学習	<p>妊娠・分娩・産褥各期の生理及び看護、出生直後の児の看護、新生児の生理及び看護 妊婦健康診査の目的・内容・回数・マイナートラブルとその対処 切迫流産・切迫早産・妊娠高血圧症候群・妊娠糖尿病の病態と看護 新生児高ビリルビン血症、新生児低血糖の病態及び看護 陣痛促進時の看護、 母性看護技術(レオポルド触診法、NST・CTGの装着と判読、乳房の管理、保健指導時の留意点、沐浴、おむつ交換、新生児の計測など)実習中随時追加していく。</p>					
テキスト	<p>森 恵美 他：系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学[1] 母性看護学概論，医学書院 森 恵美 他：系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学[2] 母性看護学各論，医学書院</p>					

<p>参考文献</p>	<p>石村由利子：根拠と事故防止からみた母性看護技術，医学書院 宮崎和子：看護観察のキーポイントシリーズ 母性Ⅰ，中央法規 宮崎和子：看護観察のキーポイントシリーズ 母性Ⅱ，中央法規 井上裕美 他監修：病気がみえる vol.10 産科，MEDIC MEDIA など 平沢美恵子：写真でわかる母性看護技術アドバンス，インターメディカ 櫛引美代子：カラー写真で学ぶ新生児の観察と看護技術，医歯薬出版</p>
<p>成績評価の方法と基準</p>	<p>別紙評価表（実習オリエンテーション時提示）により評価する。</p>

授業科目	精神看護学実習	担当 教員	氏名	鉦賀 千夏																									
単位・時間数	2単位・90時間		所属	専任教員																									
対象学生	2023年度・3年生		担当者実務経験	病院にて看護師として勤務																									
受講要件	1・2年次配当の授業科目(実習科目を含む)の単位をすべて修得している。																												
授業概要	精神に障害を持つ人に対する理解を深め、精神保健・医療・福祉における看護の役割・機能について学び、精神面の看護を実践するための基礎的能力を習得できるよう担当教員の看護師としての実務経験や精神看護学実習指導経験を活かして指導を行う。																												
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ライフサイクルの各段階における精神に障害をもつ人の特徴を理解できる。 2. 精神に障害をもつ人の身体的・精神的・社会的特徴を踏まえた看護過程の展開ができる。 3. 対象の個別性を踏まえた日常生活行動への援助、生活指導ができる。 4. 精神に障害を持つ人に対する治療的関わりを理解し、コミュニケーション技術の基本を習得できる。 5. 精神保健・医療・福祉における看護の役割・機能を理解できる。 6. 地域で生活する精神障害者の現状と支援体制を理解できる。 7. 健全な精神障害者観を養い、心のケアを行うための基本的態度を習得できる。 																												
実習の概要	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>単位</th> <th>時間</th> <th>内容</th> <th>時期</th> <th>場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実習Ⅰ 精神看護学</td> <td>2</td> <td>5.5</td> <td>知的障害をもつ小児の理解</td> <td>9月・10月 1日間</td> <td>北九州市立 北方ひまわり学園</td> </tr> <tr> <td>実習Ⅱ 精神看護学</td> <td></td> <td>76.5</td> <td>精神に障害をもつ成人期・老年期にある人の看護</td> <td>5～9月 10日間</td> <td>小倉蒲生病院 または 南ヶ丘病院</td> </tr> <tr> <td>実習Ⅲ 精神看護学</td> <td></td> <td>8</td> <td>地域における精神障害者支援の理解</td> <td>9～10月 1日間</td> <td>北九州市立浅野 社会復帰センター</td> </tr> </tbody> </table> <p>*詳細は実習要項にて説明する。</p>					区分	単位	時間	内容	時期	場所	実習Ⅰ 精神看護学	2	5.5	知的障害をもつ小児の理解	9月・10月 1日間	北九州市立 北方ひまわり学園	実習Ⅱ 精神看護学		76.5	精神に障害をもつ成人期・老年期にある人の看護	5～9月 10日間	小倉蒲生病院 または 南ヶ丘病院	実習Ⅲ 精神看護学		8	地域における精神障害者支援の理解	9～10月 1日間	北九州市立浅野 社会復帰センター
区分	単位	時間	内容	時期	場所																								
実習Ⅰ 精神看護学	2	5.5	知的障害をもつ小児の理解	9月・10月 1日間	北九州市立 北方ひまわり学園																								
実習Ⅱ 精神看護学		76.5	精神に障害をもつ成人期・老年期にある人の看護	5～9月 10日間	小倉蒲生病院 または 南ヶ丘病院																								
実習Ⅲ 精神看護学		8	地域における精神障害者支援の理解	9～10月 1日間	北九州市立浅野 社会復帰センター																								
授業時間外の学習	事前学習：詳細は事前学習オリエンテーションで説明する。(2年次の年度末)実習に臨む前に、実習要項をよく読み、実習目標が達成できるように学習を行う。授業資料を実習時に活用できるように整理する。実習前・中・後で、不足していた点などがあれば追加する。																												
テキスト	武井麻子他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[1] 精神看護の基礎，医学書院 武井麻子他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[2] 精神看護の展開，医学書院																												
参考文献	川野雅資：精神看護学Ⅱ（精神臨床看護学），ヌーヴェルヒロカワ 森 千鶴：これからの精神看護学，ピラールプラス 平澤久一：非言語的コミュニケーションUP術，メディカ出版 南 裕子 他：精神科看護の理論と実践—卓越，ヌーヴェルヒロカワ 田中美恵子 他：精神看護学 —学生・患者のストーリーで綴る実習展開—，医歯薬出版 岡田佳詠：看護のための認知行動療法，医学書院																												
成績評価の方法と基準	別紙評価表による																												

授業科目	在宅看護論方法論Ⅱ－1	担当 教員	氏名	尾倉 幸奈
単位・時間数	1単位・15時間		所属	専任教員
対象学生	2023年度・3年生		担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
受講要件	なし			
授業概要	在宅看護の対象者は小児から高齢者まで幅広く、疾患も多様である。また、対象者の家族や取り巻く環境・地域も看護の対象である。既習の看護の基本や看護援助の方法を踏まえて、在宅における特有の看護について理解を深めてほしい。実務経験を通して得た療養者の実際を伝えることで、療養者の多様な生活や価値観を想起しながら、医療を継続していくという医療の側面と療養者の生き方・考え方を支えるという生活の側面を考えた上で看護過程が展開できるよう、個人学習、共同学習を通して学びを深められるよう授業を進める。			
到達目標	1. 在宅看護における看護展開の特徴について述べるができる。 2. 対象別の在宅療養者とその家族に対する事例展開ができる。			
授業計画	回	時間	内容	方法
	1	2	在宅看護における看護過程の特徴 在宅看護における情報収集およびアセスメントの視点	講義
	2	3	看護過程展開（個人）：事例紹介・決定、情報の整理、アセスメント	講義・演習
	3	2	看護過程展開（個人）：全体図	演習
	4	2	看護過程展開（個人）：看護目標、問題の明確化	演習
	5	2	看護過程展開（個人）：看護計画立案	演習
	6	2	看護過程展開（GW）：発表会準備	演習
	7	2	看護過程展開：発表会	演習
授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・第5・6・7回の授業終了時に看護過程展開レポートの提出がある。授業時間内に完成できるよう事前学習が必要である。 ・授業終了後、展開を通しての学びをレポートする。 			
テキスト	秋山正子 他：系統看護学講座 統合分野 在宅看護論，医学書院			
参考文献	授業中に提示する。			
成績評価の方法と基準	看護過程展開レポート 45%・受講態度 5%・筆記試験 50% <ul style="list-style-type: none"> ・看護過程の展開・受講態度についてはルーブリックの評価表を配布する。 ・提出遅れは1日ごとに減点する。 ・筆記試験は45分とする。 			

授業科目	在宅看護論方法論Ⅱ－２	担当 教員	氏名	福田 敦子
単位・時間数	1単位・30時間		所属	専任教員
対象学生	2023年度・3年生		担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
受講要件	なし			
授業概要	<p>多様な療養者と家族の在宅生活での理解を深められるよう事例を用いて、在宅療養者とその家族の支援に必要な看護や社会資源について講義で学んだことを生かし実践（役割演技）を通して考える演習とする。</p> <p>学生の考えや演じた内容を学生間で共有した上で、学生が在宅での生活や療養場面をイメージしやすいよう担当者の実務経験をふまえ助言指導を行う演習形態で授業を進める。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅において医療や看護を提供するにあたり、必要となる知識や技術について説明し、実践することができる。 2. 対象に応じた社会資源の内容や活用方法について説明できる。 3. 対象の多様な価値観を尊重し、それに応じた考え方、療養の指導方法について考えることができる。 			
授業計画	回	時間	内容	方法
	1	2	演習オリエンテーション	演習
	2	4	看護器具の紹介とパンフレット作成	演習
	3	4	事例演習	演習
	4	4	事例演習	演習
	5	4	事例演習	演習
	6	2	事例組み立て	演習
	7	2	各事例情報収集	演習
	8	4	看護計画立案	演習
	9	2	指導実施	演習
	10	2	演習のまとめ・レポート作成についての説明	講義
授業時間外の学習	演習事例を考える上で必要な制度、在宅看護技術の予習・復習			
テキスト	秋山正子 他：系統看護学講座 統合分野 在宅看護論，医学書院			
参考文献	必要時演習の中で紹介する。			
成績評価の方法と基準	演習参加度（40％）レポート（40％）提出物の期限（20％）別紙評価表にそって評価する。			

授業科目	統合技術演習Ⅱ		担当 教員	氏名	尾倉 幸奈
単位・時間数	1単位・30時間			所属	専任教員
対象学生	2023年度・3年生			担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
受講要件	なし				
授業概要	<p>看護に関する各科目において修得した内容をより臨床実践に近い形で学習し、臨床に 適応できるように知識と技術の統合を図ることをねらいとしている。これまで学習した 技術を複数の課題をもつ患者に複合して技術提供できるよう、シミュレーションを通し て、安全安楽に実践できることを目指す。さらに、優先すべき事象、予期しない患者の 反応、突発的な事象、時間的緊迫に対応できる能力を体得できているか、複数のシナリ オの看護場面を技術試験することで評価する。その後の振り返りを通して自己の課題を 明確にして統合実習に取り組めるようにする。また注射等の安全な看護技術の習得を目 指す。看護の実践者として患者の看護を総合的に展開できるよう、急性期病院での実務 経験を活かし教授していく。</p>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 既習の看護の知識・技術を統合して、複数の対象の状況を把握し、優先順位と必要 な援助の判断ができる。 2. 対象の状況に応じて、適切な診療の補助技術が安全に実施できる。 				
授業計画	回	時間	内容		方法
1	2	2	1. ガイダンス 2. ケーススタディ シナリオ紹介 複数患者の状態把握		講義・演習
2	2	2	1. 複数患者の状態把握 2. 優先度、時間配分を考慮してタイムスケジュール作成		演習
3	2	2	1. 複数患者の状態把握 2. 優先度、時間配分を考慮してタイムスケジュール作成		発表・講義
4	2	2	患者の状態を踏まえた援助技術の根拠の理解		演習
5	2	2	患者の状態を踏まえた援助技術の根拠の理解		演習
6	4	4	吸引、経管栄養、浣腸、導尿、創傷処置、血糖測定 いずれかの技術演習		技術演習
7	4	4	吸引、経管栄養、浣腸、導尿、創傷処置、血糖測定 いずれかの技術演習		技術演習
8	2	2	1. 技術試験オリエンテーション(複数のシナリオの看護場面) 2. 技術テストに向けた練習		オリエンテーション・ 技術演習
9	2	2	技術テストに向けた練習		技術演習
10	4	4	1. 筋肉注射 (皮下注射) 2. 静脈内注射 3. 技術試験オリエンテーション (注射)		技術演習
11	4	4	1. 採血 2. 点滴静脈内注射 3. 留置針固定		技術演習
授業時間外の 学習	<ul style="list-style-type: none"> ・各演習、技術演習前には、事前学習が必要となる。 ・第3回発表前には発表用資料を作成する。第2回の授業内で完成しない場合は時間外 での作成が必要となる。 ・第6・7回技術演習前に手順書の作成、印刷を行う。第4・5回の授業内で完成しな い場合は時間外でグループでの作成が必要となる。 				

テキスト	茂野香おる 他：系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ，医学書院 任 和子 他：系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ，医学書院 任 和子 他：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術，医学書院 その他、各看護学領域での使用教科書
参考文献	各看護学領域での使用教科書
成績評価の方法と基準	<p>1. 課題レポート</p> <ul style="list-style-type: none"> ①複数患者のタイムスケジュール ②患者の状態を踏まえた援助計画 <ul style="list-style-type: none"> ・評価については、評価表を配布する。 ・課題レポートの提出遅れは1日ごとに減点とする。 <p>2. 技術試験</p> <ul style="list-style-type: none"> ①複数のシナリオの看護場面 ②注射 <ul style="list-style-type: none"> ・技術試験については、評価表を配布し、別途オリエンテーションを行う。 ・①②共に100点で評価し、60点以下は再試験を行う。 <p>科目の最終評価は、受講態度・課題レポート 60%、技術試験 40%で評価する。</p>

授業科目	医療安全と災害看護	担当 教員	氏名	藤本 歩
単位・時間数	1単位・30時間		所属	専任教員
対象学生	2023年度・3年生		担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
受講要件	なし			
授業概要	<p>患者や家族の安全を保証することは看護職の責務である。安全で質の高い医療を提供するために、医療安全の基礎的知識を学ばせる。人間の特性を前提とし、医療事故が起きやすい状況や背景、また回避するための方策を考え理解させる。</p> <p>災害の頻度や規模が拡大し、被害も増大している中で、被災傷病者の医療・看護への期待は大きく、看護職者は健康に関わる専門職として、役割を発揮していくことが求められる。災害により生命や健康生活への被害を少なくするための予防から災害後の看護活動について考え、理解させる。急性期病院での経験を活かし教授する。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 安全な医療を提供するために必要な知識と技術、考え方を理解する。 2. 医療事故の現状を理解し、必要な対応（事故防止・発生時の対応）を考えることができる。 3. 看護者の倫理的態度について考え、よりよい行動を考えることができる。 4. 災害各期における看護の役割を理解し、看護活動が行える基本的な知識を理解する。 			
授業計画	回	時間	内容	方法
	1	2	ガイダンス（科目の目標・学習内容など） 医療におけるリスクマネジメント	講義
	2	2	リスクマネジメントの考え方 医療安全における看護師の役割	講義
	3	2	事故防止のための知識と技術（起こりやすい事故への対策）	演習
	4	2		
	5	2		
	6	2	リスクマネジメント（医療事故分析）	講義・演習
	7	2	リスクマネジメント（医療事故分析）	演習
	8	2		
	9	2	看護場面における倫理的行動	講義・演習
	10	2	看護場面における倫理的行動	演習
	11	2	医療事故発生時・災害発生時の対応 医療安全対策	講義・演習
	12	2	医療安全と看護記録	講義・演習
	13	2	災害概論 災害看護活動	講義
	14	2	災害看護における役割と方法	演習
	15	2		
授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・円滑にグループワークを行うために、事前に項目について調べておく。 ・グループワークでの学びを授業で発表する。発表前は発表準備を行い、発表後はレポート課題がある。 ・夏季休暇中に「石巻赤十字病院の100日間」を読み、課題に沿ってレポートする。 			

テキスト	山内豊明 他：医療安全 多職種でつくる患者安全をめざして，南江堂 浦田喜久子 他：系統看護学講座 統合分野 災害看護学・国際看護学，医学書院
参考文献	由井りょう子：石巻赤十字病院の 100 日間，小学館 その他、授業中に必要に応じ指示する。
成績評価の方法と基準	グループワーク（個人レポート含む）70%、筆記試験（45分）30% レポートの提出期限の遅れは減点する。

授業科目	看護管理	担当 教員	氏名	【国際看護】①岩崎 三佳 【看護管理】②牧之瀬 一二三
単位・時間数	1単位・15時間		所属	①神戸大学大学院保健学研究所 ②北九州安部山公園病院
対象学生	2023年度・3年生		担当者実務経験	①青年海外協力隊として派遣 ②病院にて看護部長として勤務
受講要件	なし			
授業概要	<p>【国際看護】 国内外にいる多様な文化的背景もつ対象の特徴や医療の特性を知り、グローバルな視点で看護の共通の課題は何かを考えられるよう担当教員の実務経験を交えながら授業を行う。</p> <p>【看護管理】 看護管理の概念と原則を学び、質の高い看護サービスを提供するために看護職者個人および看護組織が担う役割が理解できるよう講義する。組織と個人の関係、組織のマネジメントについて理解し、管理的視点をもった看護職者となるよう看護管理者として看護の現場と関連させながら講義する。また、看護をめぐる法律や社会の仕組み、変遷について学び、これからの看護職者としての役割を考えられるようにする。</p>			
到達目標	<p>【国際看護】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. グローバルな視点で考える必要性について述べることができる。 2. 我が国と他国の多様な文化を知り比較することによって、看護に共通の課題とは何かを考えることができる。 <p>【看護管理】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護におけるマネジメントの意義と方法を理解する。 2. 組織と個人を理解し、組織の一員としての役割やあり方を理解する。 			
授業計画 回	時間	内容		方法
1	5	<p>【国際看護】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国際保健における課題、国際看護の特徴について説明する。 2. 国内外における看護教育比較：日本と海外における看護教育の体制について比較し看護の役割について考察する。 3. 異文化理解を通して、グローバルな視点での看護について考察する。 4. 国内外の看護において共通する課題について：課題を整理して、考えをまとめて記載し、提出する。 		講義・演習
2	2	<p>【看護管理】</p> <p>第1章：看護とマネジメント</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護管理とは 2) 看護におけるマネジメント <p>第2章：看護ケアのマネジメント</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護ケアのマネジメントの看護職の機能 2) 患者の権利の尊重 		講義
3	2	<ol style="list-style-type: none"> 3) 安全管理 4) チーム医療 5) 看護業務の実践 <p>第3章：看護職のキャリアマネジメント</p>		講義
4	2	<p>第4章：看護サービスのマネジメント</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護サービスのマネジメント 2) 組織目的達成のマネジメント 3) 看護サービスの提供の仕組みづくり 4) 人材のマネジメント 		講義

5	2	5) 施設・設備環境のマネジメント 6) 物品のマネジメント 7) 情報のマネジメント 8) 組織におけるマネジメント 9) サービスの評価	講義
6	2	第5章：マネジメントに必要な知識と技術 1) マネジメントとは 2) 組織とマネジメント 3) リーダーシップとマネジメント 4) 組織の調整 第6章：看護を取り巻く諸制度 1) 看護の定義 2) 看護職 3) 医療制度 4) 看護政策と制度	講義
授業時間外の学習	各時間の予習復習を行う。		
テキスト	【国際看護】 浦田喜久子 他：系統看護学講座 統合分野 災害看護・国際看護，医学書院 【看護管理】 上泉和子 他：系統看護学講座 統合分野 看護管理，医学書院		
参考文献	必要時指示する。		
成績評価の方法と基準	国際看護は講義への参加度とレポートで評価（100点）する。 看護管理は100点のテストを行う。 国際看護、看護管理ともに60点以上を合格とする。 【最終評価】 看護管理80%、国際看護20%で換算し、その合計点を科目の評価とする。		

授業科目	看護観演習	担当 教員	氏名	尾倉 幸奈
単位・時間数	1単位・30時間		所属	専任教員
対象学生	2023年度・3年生		担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
受講要件	1・2年次配当の授業科目(実習科目を含む)の単位をすべて修得している。			
授業概要	看護観は看護実践の核となり、また専門職業人(看護師)としての自己のあり方を決定するものである。臨地実習で体験した看護場面の分析を通して、看護において自分自身が大切にしたいことや看護についての考え方をリフレクションやナラティブを通して深めてほしい。看護観を論理的に表現する中で、これからの看護実践への動機づけとともに、職業人として看護実践から学び得る力を身につけることを求める。指導にあたってはリフレクションの理論とともに教員の看護師としての自己洞察の経験も活かして指導を行う。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨地実習で体験した看護場面をリフレクションし、記録することができる。 2. ナラティブを通して、考える視点を増やし、思考の整理ができる。 3. 看護観を論理的に表現することができる。 4. 看護観の主題が伝わるように発表ができる。 			
授業計画	回	時間	内容	方法
	1	2	ガイダンス(科目の目標・学習内容など)	講義
	2	2	看護体験を語る(準備)	演習
	3	4	看護体験を語る(グループワーク)	演習
	4	2	論文作成計画立案	演習
	5	4	論文作成 : 草稿発表(グループワーク)	演習
	6	2	発表会準備 : 発表原稿作成、プログラム作成、役割分担	演習
	7	2	発表会準備 : 各係の打合せ、発表練習	演習
	8	2	発表会準備 : 会場準備、リハーサル	演習
	9	8	看護観演習発表会	演習
	10	2	まとめ	講義・演習
授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習中に7場面をリフレクションし、実習担当教員に提出する。 ・草稿、論文、発表原稿を期限内に看護観担当教員に提出し、看護観発表ができるよう計画的に進める。 			
テキスト	なし			
参考文献	<p>図書室の看護に関する文献。自らの看護観を培うために多くの文献に目を通してほしい。</p> <p>看護観担当教員が必要に応じて指示することもある。</p>			
成績評価の方法と基準	<p>学習の取り組み状況(50%)と論文内容(50%)を看護観演習評価表を用いて評価する。</p> <p>リフレクション記録の不足、提出期限の遅れは減点する。</p>			

授業科目	在宅看護論実習	担当 教員	氏名	福田 敦子																							
単位・時間数	2単位・90時間		所属	専任教員																							
対象学生	2023年度・3年生		担当者実務経験	病院にて看護師として勤務																							
受講要件	1・2年次配当の授業科目(実習科目を含む)の単位をすべて修得している。																										
授業概要	<p>デイサービスの見学・参加を通して、デイサービスの役割や意義、在宅療養者の生活に合わせたリハビリテーションについて考える機会となるよう支援する。</p> <p>市町村保健センターの実習において、保健福祉機関の役割を理解するとともに、保健師の活動の見学や地域住民との関わりの中から地域で生活している在宅療養者や家族に対してどのような看護が提供されているのかを理解できるよう指導する。また、地域における看護の継続性が理解できるように指導する。</p> <p>訪問看護ステーションでは、看護師との同行訪問を通し、在宅療養者とその家族の生活を把握し、健康障害や生活障害を持ちながら在宅でその人らしい生活を送ることを可能にする看護の実際について授業の内容と関連付けながら学ぶことを支援する。その過程を通して在宅看護に必要な基礎知識・技術・態度を考える機会とする。実習で関わる事例を通して、在宅での生活を支える看護職や多職種の理解を深め、多職種との連携の必要性や保健医療福祉チームの一員としての看護の役割を理解できるよう看護師としての経験を活かして実習指導を行う。</p>																										
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅療養者とその家族および生活の場が理解できる 2. 在宅療養者とその家族の特徴をふまえた看護過程が展開できる。 3. 在宅療養への看護活動の実際が理解できる。 4. 在宅における保健・医療・福祉機関の概要を知り、看護の役割が理解できる。 5. 地域における看護の継続性が理解できる。 6. 訪問看護師としての態度が習得できる。 																										
実習の概要	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>単位</th> <th>時間</th> <th>内容</th> <th>時期</th> <th>場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実習Ⅰ 在宅看護論</td> <td rowspan="3">2</td> <td>2</td> <td>地域での生活に合わせたリハビリの理解</td> <td>5～6月</td> <td>デイサービス せいかつCAN 曾根</td> </tr> <tr> <td>実習Ⅱ 在宅看護論</td> <td>21</td> <td>保健福祉機関の機能役割と保健活動の理解</td> <td>10月</td> <td>小倉南区役所保健福祉課</td> </tr> <tr> <td>在宅看護論実習Ⅲ</td> <td>67</td> <td>訪問看護ステーションの機能役割と訪問看護の理解</td> <td>5～11月</td> <td>恵友会訪問看護ステーション 北九州ヘルスケアサービス 八幡訪問看護ステーション 湯川訪問看護ステーション</td> </tr> </tbody> </table> <p>*詳細は実習要項にて説明する。</p>					区分	単位	時間	内容	時期	場所	実習Ⅰ 在宅看護論	2	2	地域での生活に合わせたリハビリの理解	5～6月	デイサービス せいかつCAN 曾根	実習Ⅱ 在宅看護論	21	保健福祉機関の機能役割と保健活動の理解	10月	小倉南区役所保健福祉課	在宅看護論実習Ⅲ	67	訪問看護ステーションの機能役割と訪問看護の理解	5～11月	恵友会訪問看護ステーション 北九州ヘルスケアサービス 八幡訪問看護ステーション 湯川訪問看護ステーション
区分	単位	時間	内容	時期	場所																						
実習Ⅰ 在宅看護論	2	2	地域での生活に合わせたリハビリの理解	5～6月	デイサービス せいかつCAN 曾根																						
実習Ⅱ 在宅看護論		21	保健福祉機関の機能役割と保健活動の理解	10月	小倉南区役所保健福祉課																						
在宅看護論実習Ⅲ		67	訪問看護ステーションの機能役割と訪問看護の理解	5～11月	恵友会訪問看護ステーション 北九州ヘルスケアサービス 八幡訪問看護ステーション 湯川訪問看護ステーション																						
授業時間外の学習	<p>事前学習：講義で配布した資料、テキスト内容を整理し、実習で活用できるよう実習開始前に学習しておく。</p> <p>実習中：事前学習で不足していた学習内容は随時追加学習を行う。</p>																										

テキスト	秋山正子 他：系統看護学講座 統合分野 在宅看護論，医学書院
参考文献	清水忠彦：わかりやすい公衆衛生学，ヌーヴェルヒロカワ 平林勝政 他：ナーシンググラフィカ 健康支援と社会保障④ 看護をめぐる法と制度，メディカ出版
成績評価の方法と基準	在宅看護論実習評価表に基づき評価を行う。 在宅看護論実習Ⅰ（4%）レポート内容にて評価 在宅看護論実習Ⅱ（16%）レポート内容にて評価 在宅看護論実習Ⅲ（80%）

授業科目	統合実習	担当 教員	氏名	尾倉 幸奈														
単位・時間数	2単位・90時間		所属	専任教員														
対象学生	2023年度・3年生		担当者実務経験	病院にて看護師として勤務														
受講要件	1・2年次配当の授業科目の単位をすべて修得している。																	
授業概要	複数患者の受け持ちや夜間実習を通して、看護の役割と看護師の行動を理解し、チームナースングを円滑に行うための看護実践ができることを目指す。担当教員は看護師としての実務経験を活かし、看護の判断、優先順位の判断、時間管理の方法、医療チーム・看護チームとの連携等についても指導する。																	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 複数患者を受け持ち、必要な援助と優先順位を判断し、医療・看護チームと連携しつつ看護実践ができる。 2. 夜間の患者の状況を理解し、看護活動を理解する。 3. 専門職業人としての看護師の態度が習得できる。 																	
実習の概要	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>単位</th> <th>時間</th> <th>内容</th> <th>時期</th> <th>場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>統合実習</td> <td>2</td> <td>90</td> <td> <ol style="list-style-type: none"> 1. 複数患者の看護 2. 夜間の患者の状況と看護の理解 3. 専門職業人としての態度の習得 </td> <td>11～ 12月</td> <td>北九州総合病院</td> </tr> </tbody> </table>						区分	単位	時間	内容	時期	場所	統合実習	2	90	<ol style="list-style-type: none"> 1. 複数患者の看護 2. 夜間の患者の状況と看護の理解 3. 専門職業人としての態度の習得 	11～ 12月	北九州総合病院
区分	単位	時間	内容	時期	場所													
統合実習	2	90	<ol style="list-style-type: none"> 1. 複数患者の看護 2. 夜間の患者の状況と看護の理解 3. 専門職業人としての態度の習得 	11～ 12月	北九州総合病院													
授業時間外の学習	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事前学習 <ol style="list-style-type: none"> ① チーム医療における看護の役割 ② 看護の組織、職位と役割、円滑に運営するための各自の役割 ③ リーダーシップとフォロワーシップ ④ 看護職者の自律性 ⑤ 病棟における安全管理 2. 受け持ち患者の看護に必要な事項 																	
テキスト	各看護学教科書 上泉和子他：系統看護学講座 看護の統合と実践[1] 看護管理																	
参考文献	学内図書室にある看護系の図書																	
成績評価の方法と基準	別紙「実習評価表」により評価する																	